

## 『検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる』 正誤表

このたびは『検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

本書の第1刷（2019年1月1日発行）、第2刷（2019年4月1日発行）、第3刷（2019年9月1日発行）、および第4刷（2019年11月15日）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2019年10月9日作成 2020年3月17日更新

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1,2	5頁・1行目	異常な <b>検査値</b> の見落とし	異常な <b>病態</b> の見落とし	2019/10/14
1,2,3	22頁・下から2行目	Na - Cl (= Anion gap - HCO <sub>3</sub> )	Na - Cl (= Anion gap + HCO <sub>3</sub> )	2019/10/14
1,2	38頁・2行目	入院から <b>7</b> 病日まで悪化し	入院から <b>9</b> 病日まで悪化し	2019/10/14
1,2	38頁・下から1行目	<b>6</b> 病日から改善に向かっている	<b>5</b> 病日から改善に向かっている	2019/10/14
1,2	41頁・「13 動脈血ガス」-「④補正HCO <sub>3</sub> 値から、代謝性アルカローシスを判断する」2行目	代謝性アルカローシス <b>がある</b> 。	代謝性アルカローシス <b>はない</b> 。	2019/10/14
1,2	136頁・「I ビリルビン」1行目	溶血胆道	溶血、胆道	2019/10/14
1,2,3,4	162頁・「主な検査値の読み方」-「② AST」4行目	ASTの半減期がASTの3倍	ALTの半減期がASTの3倍	2020/3/23
1,2	321頁・「12 電解質異常」4~5行目	K 2.8mmol/Lと低下 <b>している</b> 。動脈血ガス分析では代謝性アルカローシスがあり、 <b>代謝性アルカローシスを主体と考えると、代謝性アルカローシスを代償するために</b>	K 2.8mmol/Lと低下し、動脈血ガス分析では代謝性アルカローシス <b>がある</b> 。 <b>アルカレミア</b> を代償するために	2019/10/14
1,2	321頁・「12 電解質異常」8~9行目	<b>代謝性アルカローシス</b> となる。	<b>アルカレミア</b> となる。	2019/10/14
1,2	321頁・「12 電解質異常」9行目	<b>代謝性アルカローシス</b> が主体か	<b>アルカレミア</b> が主体か	2019/10/14
1,2	323頁・4行目	<b>代謝性アルカローシス</b> が生じている。	<b>アルカレミア</b> が生じている。	2019/10/14